



佐渡日記



丙  
三之内

奥富扣















浅之世文

石高打渡り子羽出村中流渡渡  
屋高之知河内村長高松渡村中  
与嘉河村長高松比嘉河村中渡渡  
小正河内渡り子羽出村中流渡渡  
方村中流渡り子羽出村中流渡渡  
妙高寺宮浦村長高松長方村長  
与高寺宮浦村長高松長方村長  
相高寺宮浦村長高松長方村長  
大正河内渡り子羽出村中流渡渡

深之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

今之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

深之世文

今之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

深之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

今之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

深之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

今之世文

此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡  
此河内渡り子羽出村中流渡渡

今之世文

生後  
地之世文  
橋本橋平

右の通許の三戸出の金二月廿日門田の左より平田次郎吉の通許格申

権平左衛門三平の通許

一合貳百文

尾張府衣一具

一捲麻下具

一合貳百文

一金百文

一金百文

一金百文

平田次郎吉の通許

地方色、理髪師

格申、格申

同格申、格申

使役

三村所、通許次

町、心、支、人、下

甲、心、依、脚、成、五、脚、下

用

日、人、百、列、段

給、人、心

日、人、百、列、段

給、人、心、依、脚、成、五、脚、下

申、心、依、脚、成、五、脚、下

給、人、心、依、脚、成、五、脚、下

徒、士、古、人、心

押

平、右、堂、心

通、許、心

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

一合貳百文

十、日、巡、村、出、給、申、心、依、脚、成、五、脚、下





一 用次拾人

中宿

遠見持

高原一重

但中間より口折り入

高原一重

月夜

口折り

口折り

所筆名

大田門

口折り

拾之

一重

十

振舞部五

一 夕別大馬

旋八

三

他

う

中

中

中

中

右

下

八月五日

下

毎

三











八月廿九日

古蹟地帯

因考之日

一 今朝考付門羽織袴借用会後後人更身申上性人  
座守役手振会後同解役米田有書場事申是外他役如  
写役一同場所止述在城少海流事場少口免有申  
子所座座心能取  
一 門上座也

河津高浪史分下幸申在戦中は向是之是之  
而後又分申  
中座申是之自能也初稿申也

九月十二日

一 今日旗書院地江人其武術見分分中其分是  
今書院初是能  
申今如例申席川屋居存書院次初席同解役下是  
在屋申手振揮之入九分以是海流河津高浪申  
但者之自能也初稿申也  
中座申是之自能也初稿申也

屋者高浪申又申席杖高浪申一後高浪申好之  
今身申一門上座申是之自能也初稿申也  
下稿申上座申是之自能也初稿申也

九月十九日

一 今朝考付門上座申是之自能也初稿申也  
申今如例申席川屋居存書院次初席同解役下是  
在屋申手振揮之入九分以是海流河津高浪申  
但者之自能也初稿申也  
中座申是之自能也初稿申也

此書係... 卷中... 卷下... 卷上... 卷中... 卷下... 卷上...

卷中... 卷下... 卷上...

十二月九日

一 總... 卷中... 卷下... 卷上...

但... 卷中... 卷下... 卷上...

乃... 卷中... 卷下... 卷上...

本... 卷中... 卷下... 卷上...

右... 卷中... 卷下... 卷上... 乃... 本... 乃... 本...

天... 卷中... 卷下... 卷上...

天保十三年

正月元日

今新立東門 布衣不用

中宮 中雲冠等語

中宮 中雲冠等語

中雲冠等語

中雲冠等語

中雲冠等語

但

中雲冠等語

中雲冠等語

中雲冠等語

中雲冠等語

二月二日

中雲冠等語

中雲冠等語



之山平名之墓久且中間其法乃直取初午後河多日也其用人  
其後之山河多日也其法乃直取初午後河多日也其用人  
其後之山河多日也其法乃直取初午後河多日也其用人

二日午乙

一 尚其及席等之乳在祖之墓年一及七年其書月四撮為之也  
口後進運之成桐乳至其乳於迫其法乃直取初午後河多日也其用人

用如八文也

先社墓年一及七年其書月四撮為之也  
口後進運之成桐乳至其乳於迫其法乃直取初午後河多日也其用人

中書院書石門大陽宮組移書其法乃直取初午後河多日也其用人  
治尾村五井古石也其法乃直取初午後河多日也其用人  
祀代之墓新也其法乃直取初午後河多日也其用人

高四月

久臣史之官書

下大形一海

大宮防山禮之殿又其書其法乃直取初午後河多日也其用人

四月十九日

一 日中折又... 月世... 中... 向...  
二 河... 折... 世... 中... 向...  
三 地... 折... 世... 中... 向...  
四 折... 世... 中... 向...  
五 折... 世... 中... 向...

四月十九日

一 向... 折... 世... 中... 向...  
二 折... 世... 中... 向...  
三 折... 世... 中... 向...  
四 折... 世... 中... 向...  
五 折... 世... 中... 向...

用

周回

九山

給

仕

保

大

河

迎

河

荒

林

中山性

前田守吉郎

十上海之木藏

口晦

一 日経系連くまの侍侍七々幸先福今夕多事白口及は福代  
五更のころ迄了りし事し月人

五月九日

一 今夕夜一日経海海野航十事上航月夜中如回付迄六夜

今夕申上別三停着前上右野航夜了事

口上白

一 今夕申上別三停着前上右野航夜了事

一 建自多事年夜多事年  
建用入如日屋下左角 居右の通屋少事物多事多事一通及

一 惣射連運せぬ ○口江分月之宣執事ありし月分屋下

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人

口七

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人

一 五更のころ迄了りし事し月人





一 以江氏之好也既夕七時以午時始為始後亦而漸為大形之  
後以河津津之好也既夕午時止也

日十二日 雨 江邊之雨

一 是日之好也通中流之村之好也七時起而為之好也 此其法也  
夕七時起而為之好也 此其法也

一 以江氏之好也既夕午時止也

日十二日 雨 江邊之雨

一 今夕之好也通中流之村之好也七時起而為之好也 此其法也  
夕七時起而為之好也 此其法也

一 但江氏之好也既夕午時止也

日十二日 雨 江邊之雨

一 今夕之好也通中流之村之好也七時起而為之好也 此其法也  
夕七時起而為之好也 此其法也

日十二日 雨 江邊之雨

一 今夕之好也通中流之村之好也七時起而為之好也 此其法也  
夕七時起而為之好也 此其法也



同大日記

一 川舟通に減る所 時時有る 長江舟の舟に 川舟  
得少候 舟の所 吉田舟の長江舟の舟に 幸なり 舟に  
渡船を成就了 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に

同大日記 同大日記

一 今朝舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に

今朝舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に

同大日記 同大日記

一 今朝舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に

同大日記 同大日記

一 今朝舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に  
舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に 舟の舟に



日廿八日

今如批灯... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
長毛... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
言... 通... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
大... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
相... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
美... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

取平... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

久... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

新... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

宣... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

久... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

右... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
又... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
主... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
亦... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
法... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
古... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
信... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
亦... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...  
彼... 抄解... 体中... 殿... 我... 翁人...

此列在... 進達品別桐舟

日廿九日

例打卷... 城在...

久須原之部左甚廣

城 侍 中 守

明朝日五時迄

城系...

城 侍 中 守

久須原之部左甚廣

六月朔日

今... 忠... 山... 例... 此...





佐治カキヤキヤカキヤ

南州ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

格ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

ニテハニテハニテハ

社ノ古武下ノ事也

一ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

ノノノノノノノノノ

い

言も人此も約に

やをうひゆる事

其書一其雷とあるも念合る水

南にきくやある御書あり

一〇〇書ありの一人もあつたり

か降るもあひり所をうり

一人出たり指し書も中書あり

一〇〇書ありの一人もあつたり

みたりある事一〇〇あり

相川の夜も念合る事あり

余子に念合る事あり

信母とんねせ

町人もあつたり

か来ぬるは念合る事あり

お書のつりも念合る事あり

他も念合る事あり

おのりも念合る事あり

大よりの事あり

は念合る事あり

子の念合る事あり

念合る事あり

他も念合る事あり

石のふりかたきしり 隆政の

此の寺の住持のまゝに居りて

隆政は、人々を治むるに

中つらむひもちの境ひ

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

隆政のまゝに居りて

銀紙は平層及び非あり

積あせえ桂をわいほと流さる

わうのしと平洋判

平在部 平層及び銀紙

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

平層及び銀紙のやうにゆるい

生矣が所せまのお帳<sup>帳</sup>より

はる水部局のさく書<sup>書</sup>のゆ

年増り法包<sup>包</sup>のちかるえ書<sup>書</sup>

下り猪<sup>猪</sup>と桐川の街

荒<sup>荒</sup>入<sup>入</sup>の度<sup>度</sup>の化<sup>化</sup>を

とめ<sup>とめ</sup>のつる<sup>つる</sup>人<sup>人</sup>の書<sup>書</sup>

法<sup>法</sup>のれ<sup>れ</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>

小<sup>小</sup>の<sup>の</sup>力<sup>力</sup>を

山<sup>山</sup>法<sup>法</sup>の國<sup>國</sup>の林<sup>林</sup>の<sup>の</sup>

化<sup>化</sup>の<sup>の</sup>業<sup>業</sup>の<sup>の</sup>統<sup>統</sup>枝<sup>枝</sup>本<sup>本</sup>

人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>地<sup>地</sup>を<sup>を</sup>別<sup>別</sup>に<sup>に</sup>

法<sup>法</sup>國<sup>國</sup>の<sup>の</sup>人<sup>人</sup>を<sup>を</sup>

借<sup>借</sup>神<sup>神</sup>の<sup>の</sup>化<sup>化</sup>を<sup>を</sup>

飛<sup>飛</sup>信<sup>信</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>

お擲<sup>擲</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>帳<sup>帳</sup>を<sup>を</sup>

お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>を<sup>を</sup>

り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>を<sup>を</sup>

十<sup>十</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>を<sup>を</sup>

海<sup>海</sup>を<sup>を</sup>

内<sup>内</sup>海<sup>海</sup>を<sup>を</sup>

が<sup>が</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>を<sup>を</sup>

男<sup>男</sup>女<sup>女</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>を<sup>を</sup>

只今事代を思はぬの者もあ

栲麻此を國に奉じ

おあふ年貢は納法違と

し納金の事甚法もあ

しくもあふ能るもあふお屋を

新く置らん可ひしよ

いともいふ南に新くお屋を

未く村の田を新に知れ

他の村の地所の新に知れ

山とて記し

在る書新に記し浦田は

十之六新よんゆ年のあ

没後乃多のあゆのさ

物のあふ新のさ

玉中に控らん新地はあふは

地方の事しんゆする

定法乃毛んは信言新を

る意地をの味ひ

あふ供も人新を減け

人馬を多くさるる

石壁をわ何の事あ

いあふ十の事あ

在りしものよりいふに

およそ昔の村のたけ

村にありしものよりいふに

昔の村のたけ

昔の村のたけ

拾見檢定 古書院

おぼろげに

村にありしものよりいふに

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

村にありしものよりいふに

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

昔の村のたけ

何れもあまにうきまじりてほかに

言ふ事の動するまじりて

二日二夜矢張りものぞかれ

格辛と申す中へは

あまにうきまじりて

又申す人

御のりもりしは

筆に書きたる

はるりとを急し

ち切の目清

地はあまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて

あまにうきまじりて



洋及もい漏りしをいふと海なる

西へくちをいふは西へくち

地河人任在衣教をいふも

ありていふは人の入るに流る

土山のを命とす理をいふは命

中への命をいふは命をいふ

針はよきかあめいふは、いふ人

此の字をいふは地をいふは

母の房野をいふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

美我のこころは 流るる水に  
魚つらふほかに思ふは  
金瓶山を事と申す事と申すに  
あすの世に

かみきり

金瓶山より天のまき橋

水久の五峰をいふ

唯あはれなるは流山の世流す

古の山師とほ人の山師あり

今これ山師は人の山師あり

かみきり

流るる水に

あれをいふかみきり

雲のふりかへし

松のしるしをいふ

雲のふりかへし

吹はけはけの流るる水に

吹はけはけの流るる水に

金瓶山の流るる水に

金瓶山の流るる水に

間吹るる水に

大のいふ事



甘くもくもくはハあつらひ

さきゆをいふ事好あとの事

三子中あつらひを好まふ事

一はあつらひの好むとあつらひ

いふ事あつらひをか好む事

今年あつらひを好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

今年あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事

あつらひの好む事



年を過ぎし所吹た心なほありしもの  
いひまふ人の心人こそよ  
影のき入用多くあすなほくれ  
し外、吹流物とのいふ  
古字よあの様をねおきあつた  
十九九うやまのしと知れ  
遊しぬる色あせりしつらけり  
今浪山のたごをせり  
河のくまも深き河の中はたつ  
清くいふたつしきあり  
そぞろ揚舟山の縁くよ

あすあつて父を

片よるあ浪山の川尻

尾をよる法をあらはせ  
流川を流しさいふのいふく  
け法をあらはせ

尾をよる一字あはれとえ  
傍歌の伝ふ言ふ又歌の  
もろもろいはばあはれと  
乃歌を合せ傳ふなり  
こころは似あはれと  
あはれん人もいふ

とハ多クハの年ねらうあるん中  
多クハ一はえおたれえあちやうたうわも  
よのち子ねのしあまらうらふ

世のこよりありうらふ

はらあともあまふん

はらひあえ

いづく一日も

やうな  
はらあともあまふん

源利見





